

災害に強い森づくり

兵庫県では、森林の防災面での機能強化を早期・確実に進めるため、平成16年の度重なる風水害の被害を踏まえ、平成18年度から「災害に強い森づくり」を計画的に推進しています。



これまでの取組により、森林からの土砂流出量の減少、流木・土石流災害の軽減、野生動物による農作物被害の減少など、高い事業効果が実証されています。

一方で、近年の記録的豪雨や台風による災害の甚大化、頻発化による災害リスクは依然として高く、計画的に整備を進めて行く必要があります。

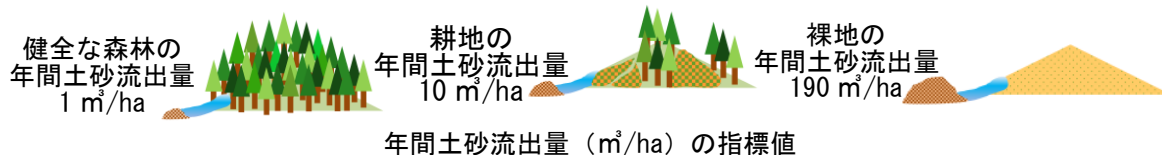
このため、県民緑税の課税期間を令和3年度から5年間延長し、「災害に強い森づくり（第4期対策：R3～R7年度）」に引き続き取り組みます。



緊急防災林整備

【整備効果】

- 平成 30 年 7 月豪雨災害では、施工地において流木や土砂の流出は無かった
- 間伐木を利用した土留工整備地の年間土砂流出量は、未整備地に比べて少なく、ha 当たりの流出量は「健全な森林の年間土砂流出量 1 m³/ha 以下」に抑制



簡易流木止め施設が流木を捕捉



災害緩衝林が流木と土石流の発生を防止



土留工の設置により表面侵食防止機能が向上

【第 4 期対策の整備方針】

溪流対策：谷の上流部に勾配 30 度以上の凹型斜面がある 15 度以上の危険溪流で、流木・土石流災害を軽減させる災害緩衝林等を整備します。

斜面对策：シカ食害等により下層植生が衰退した箇所は土砂流出量が増加することから、斜面勾配 30 度以上の下層植生の衰退した斜面において、間伐木を利用した土留工の設置やシカ不嗜好性樹種等の植栽により表面侵食の防止を図ります。

谷上流の急峻な凹型斜面

斜面对策

- ・ 間伐木を利用し土留工の設置
- ・ シカ不嗜好性樹種等の植栽

溪流対策

- ・ 倒木・流木の除去
- ・ 大径木化を図る間伐
- ・ 災害に強い広葉樹の植栽
- ・ 簡易流木止め施設の設置



里山防災林整備

【整備効果】

- 人家裏山の危険木伐採により、住民の約7割が倒木、山崩れ等に対して「不安が解消した」と評価
- 減災活動支援の実施により、住民の約8割が「今後の災害時に役に立つ」と評価



クレーンを用いた人家裏の危険木伐採



人家裏山の簡易防災施設の設置
(鋼製かご枠工)



防災マップを用いた「防災学習会」の開催

【第4期対策の整備方針】

勾配30度以上で倒木や崩壊の危険性の高い人家裏山の斜面で、危険木伐採等に加え、簡易防災施設の整備により崩壊防止力の向上を図ります。また、減災活動支援などのソフト対策も実施します。

第4期対策の整備イメージ



人家裏山の凹型斜面で発生した表層崩壊



人家裏山の斜面で簡易防災施設を設置

野生動物共生林整備

【整備効果】

- バッファゾーン整備と集落防護柵の一体整備により、被害を受けた農地の約7割が解消又は減少
- シカ食害で衰退した下層植生が、植生保護柵の設置により回復し、土砂流出防止効果を発現

【第4期対策の整備方針】

- ・ 深刻な農作物被害が発生している地域で、バッファゾーンを整備します。
- ・ 下層植生が衰退した広葉樹林型整備地には、植生保護柵の設置により確実に森林を再生するとともに、柵外にシカ不嗜好性樹種を植栽し、表面侵食防止など林地の保全を図ります。

第4期対策の整備イメージ

